龍宝山大徳寺は今宮の南にあり。開基は大燈国師なり、名は妙超といふ、姓は紀氏、もと播州揖西といふ所の人なり。父母子なきことをうれひ、書写山の観世音に祈りしかば、ある夜母の夢に、雁飛来り五葉にひらきたる花をあたへけるよと思ひしより姙り。妙超生れていたゞきの骨そびえ立、眼光かゞやき、異形にして十一歳にて書写山の戒信律師につかへ、経書を読、九流三蔵百家の異道まで究め、いまだ髪をもそらずして京師相模に至り、もろ〳〵の尊宿に参問して後、建長の大応国師に謁し、悟道第一の門子となりぬ。大応は延慶元年十二月に遷化あつて、妙超は洛に上り、東山の雲居寺に閑居しける、ある夜の夢に、僧六人来り出世の事いひて、ほどなく紫野に入、仏殿はたてずして法堂ばかり立られしとかや。さて又洗心子玄恵法師其外儒者九人、一志に禅宗を破らんことを朝廷に奏し、議論まち〳〵ありて、諸儒おの〳〵理に負、しかも弟子となり、洗心子は入室参禅し、大徳の方丈を建、雲門菴と号す。ある時花園帝妙超をめし、仏法不思議与王法対坐と勅ありければ、妙超奏して王法不思議与二仏法一対坐など勅答せられしより、後醍醐天皇にいたり寵恩いよ〳〵渥く、辱くも投機頌を宸筆に遊し、興禅大燈国師の号を賜り、又高照正燈国師の号を加へ賜る。延元二年丑臘月廿二日遷化す、寿五十六。〔以上大燈国師行状の意をとる〕

仏殿には釈迦仏を本尊にして、梵天、帝釈天、達磨、臨済の像を安置す。雲門庵には大燈国師の像あり、其外花園院、後醍醐院、後土御門院の神主ます。大応国師の画像も傍にあり。

真珠庵は一休和尚此所に住居し給ひしなり。真珠庵と一休の筆を染給ひし額あり、庭に聖泉あり、和泉式部が夫少将

保昌(やすまさ)の宅地なりしといふ。

当寺の伽藍(がらん)は赤松円心(あかまつゑんしん)同じく則祐柱石(そくいうちうせき)の料(れう)を寄す、山門は連歌宗匠(そうしやうそうちやう)宗長修造し、閣は千利休(せんのりきう)、方丈(はうぢやう)の門は明智光秀(あけちみつひで)寄進なりといふ。